

校長室より

校長 西里 俊文

「心地よいことばのシャワー」

「ことばのシャワー」をみなさんは聞いたことがありますか？

私がまだ20代後半に初めて聾学校教員に赴任した頃、先輩教員が当時よく使っていたことばです。このことばを思い出したのは、プールのシャワーを浴びたときです。自分の健康のため、10数年前からスポーツジムに通っています。とはいっても、ものすごい運動をするわけでもなく、30分ほどプールで歩いたり、泳いだりする程度で、自分のペースで行っています。

赴任した弘前でも続けるべく、新しいスポーツジムに申し込み、4月から通っています。利用初日に早速泳ぐ気満々で、プールに入る前にシャワーを出しました。いきおいよく出てきたのはなんと冷たい水のシャワーでした。（後に分かったことは、温水が出てくるまでには時間がかかるということでした。）私にとっては予期しない冷たい水を浴びたものですから、びっくりするや寒いやらで、少し不快な気持ちになりました。

そんなときに、ふと「ことばのシャワー」を思い出したのです。

現在であれば、特別支援学校での勤務経験を重ね、子どもたちに応じたことばの指導が重要であると理解できますが、当時若かった私は、聾学校教員としてなんとかことばの指導をしっかりとしたいという思いで、担当する生徒にあれもこれもとことばの指導をめいいっぱいしていました。恥ずかしい限りです。

自分自身の反省を含め、次の日から弘前聾学校での先生方の様子を「ことばのシャワー」の視点で見ってみました。

先生方は子どもの視点に立ち、「○○ってどんなことかな。」「そうだね、それは○○と言うよね。」「よく知っているね。すばらしい。」「この間覚えたことばを使っているね。いいね。」などと、子どもの気持ちに寄り添って、丁寧に子どもたちにとって適切な量に調節しながら指導しておりました。

シャワーはその日の気温や体調によって、その水量や温度を調節し、心地よいものであることが重要ですね。ことばのシャワーもたくさん浴びせ続けることがよいのではなく、子どもたちがことばを覚えて使って、相手に通じてうれしいなどの喜びを感じ、ことばの学習が心地よいと思えることが重要なのではないかと考えています。

本校教職員が今後も子どもにとって心地よいことばのシャワーを浴びることができるよう、専門性の向上に努めていきたいと考えております。

